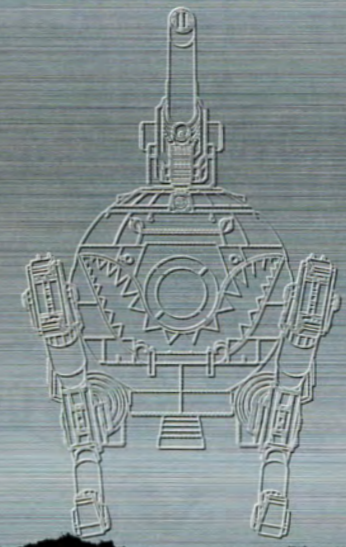




MOBILE POD  
RB-79

# BALL

E.F.S.F. MASS-PRODUCTIVE  
MIDDLE-RANGE SUPPORT  
MOBILE POD



地球連邦軍  
量産型中距離支援モビルポッド  
RB-79「ボール(シャークマウス仕様)」  
1/100スケール  
マスターグレードモデル

# RB-79 BALL

E.F.S.F. MASS-PRODUCTIVE MIDDLE-RANGE SUPPORT MOBILE POD



地球連邦軍  
量産型中距離支援モビルポッド  
RB-79「ボール(シャークマウス仕様)」  
1/100スケール  
マスターグレードモデル

BANDAI 2006 MADE IN JAPAN

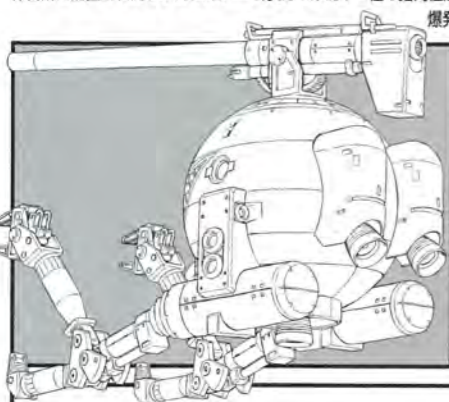


0145381

# RB-79 BALL

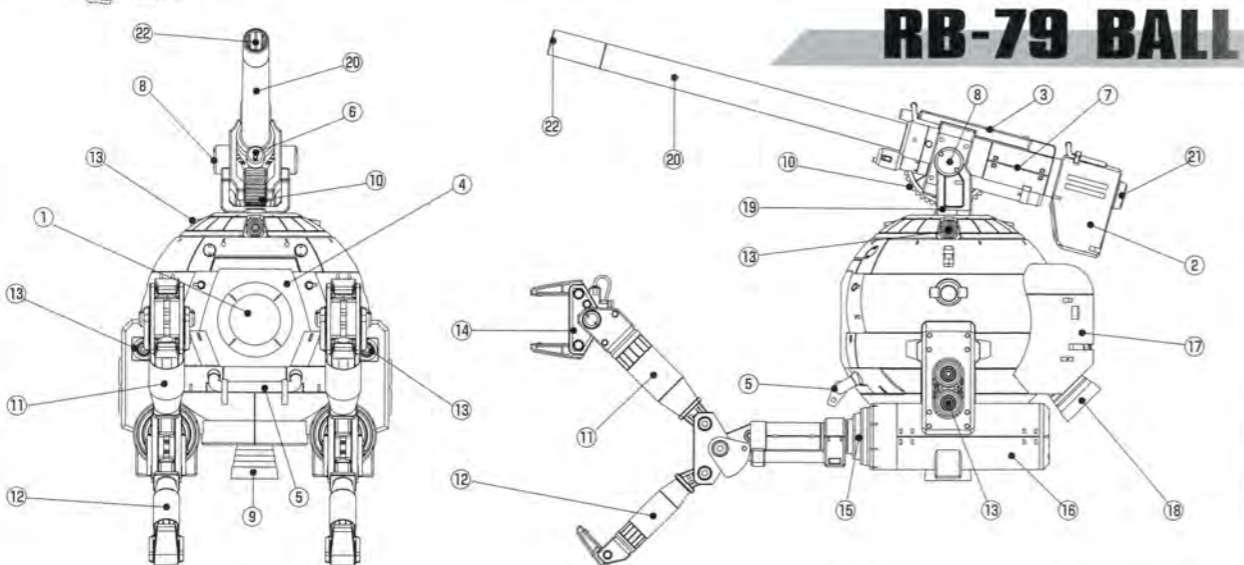
U.C. (宇宙世紀) 0079年。地球に最も近い宇宙植民都市サイド3はジオン公国を名乗り、地球連邦政府に独立戦争を挑んできた。巨大な人型機動兵器MS (モビルスーツ) を開発したジオン公国軍は、艦隊戦を中核とする地球連邦軍の旧来の戦術に対して圧倒的な優位を確保。同年初頭から一ヶ月あまりの戦闘で総人口の約半数が死に、戦艦は膠着状態に陥った。地球連邦軍は「V作戦」を実行。一年戦争の中盤以降、地球連邦軍は艦艇の建造とMSの生産を大々的に行い、宇宙での地球連邦軍の一大反撃作戦の展開を可能としたのである。地球連邦軍の主力MSはRGM-79 ジムであるが、首脳陣は宇宙における戦力はジムのみでは不十分だと考えていた。量産機としてロールアウトしたジムの性能が初期のスペックに達していなかったのだ。そこで、以前より宇宙空間における作業用に官民問わず使用されていた機体を兵器化し、ジムの支援機として大量に生産することとなった。それがRB-79 ボールである。

「ボール」は、熱核反応炉やビーム兵器などは装備しておらず、その名の通り、球形のコントロールブロックに2本のマニピュレーターと大型キャノン砲などを装備した宇宙用のワンマンポッドに過ぎない。実際、本機はもともと空間作業用に使用されていた民生品のスペースポッドSP-W03の基本設計を流用したものである。古来、既存の車両や航空機が軍事転用された例は枚挙に暇がなく、本機もその例に漏れない。まず、パイロットのサバイバリティを向上させるため、コックピット周りをトラスフレーム構造で覆って「戦闘レベル」まで強化し、それに燃料電池やプロペラントタンクなどを追加した上で、必要十分な装甲を施してある。姿勢制御は機体各所に配置されたサブスラスタで行う。これは、一種の指向性爆薬に近い固体燃料ペレットを



爆発的に燃焼させることで、瞬間的に大推力を発生するシステムで、燃料の消費は激しいものの、メインスラスタを使わずに機体を自在に移動できる利点があった。同年6月にはプロトタイプが完成し、テストと並行して量産が行われ、ソロモン海戦からア・バオア・クー攻略に至る期間中に1200機が参戦し、ほぼ期待通りの戦果をあげている。また、ボールは「RX計画」立案の時点でRX-76として提案されていたものに着想を得ているとする説もあるが、実際にRB-79がRX-76計画に則ったものであったかどうかは不明である。AMBAC機動モビーム兵器のドライブも不可能ではあるものの、帰還後の機体冷却設備などが不要であり、RB-79のみならば、軽武装や只の輸送艇も空母として運用できたのが最大のメリットと言えるだろう。無論、民生品の生産ラインが流用できたことも大きかった。「ボール」は、設計当初から生産時期や施設による多少の仕様違いは折り込み済みであり、それぞれの生産拠点や運用部隊による塗装バリエーションは多岐にわたる。実際の稼働や任務に支障がない限り、部隊単位で独自の塗装も認められていたという。なかでも旧世紀の戦艦などに倣った、いわゆる「シャークマウス塗装」は、実戦投入当初から多くのパイロットに好まれた塗装パターンのひとつであり、その土気を大いに高めたと言われている。本機は、初期型に多く見られたデコレーションを踏襲したもので、同様の塗装パターンは、一年戦争後期のルナツーほかソロモン周辺の宙域においても多数目撃されている。

Conceptual illustration : Katoki Hajime



- ① キャノピー
- ② マガジン
- ③ レキュバレータ・シリンダー
- ④ コックピットハッチ
- ⑤ ロールバー
- ⑥ センサー
- ⑦ チャンバー
- ⑧ キャリッジ
- ⑨ ボトムメインスラスタ
- ⑩ エレベティングギア
- ⑪ メインアーム
- ⑫ サブアーム
- ⑬ サブスラスタ
- ⑭ クランプヘッド
- ⑮ テレスコピックブーム
- ⑯ ブームシリンダー
- ⑰ バックバックカバー
- ⑱ メインスラスタ
- ⑲ ターレット
- ⑳ パレル
- ㉑ エキストラクター
- ㉒ マスル

注) RB-79 "ボール" は、U.C.0079年の6月前後にはプロトタイプが完成しており、数カ月の期間で相当数が生産され、終戦までに数種の仕様の機体が生産されている。本機の仕様は「チェンバロ作戦(ソロモン海戦)」への投入を目標として生産され、実戦投入もそれに前後する時期に行われたもので、U.C.0083年以降も運用されていた最終型に至る過渡的な仕様を持つ。

## 注意

### 必ずお読みください

- この商品の対象年齢は15才以上です。(鋭い部品がありますので、安全上15才未満には適しません。)
- 小さな部品があります。口の中には絶対に入れてください。窒息などの危険があります。
- ビニール袋を頭から被ったり、顔を覆ったりしないでください。窒息する恐れがあります。
- 小さなお子様のいるご家庭では、お子様の手の届かないところへ保管し、お子様には絶対に与えないでください。

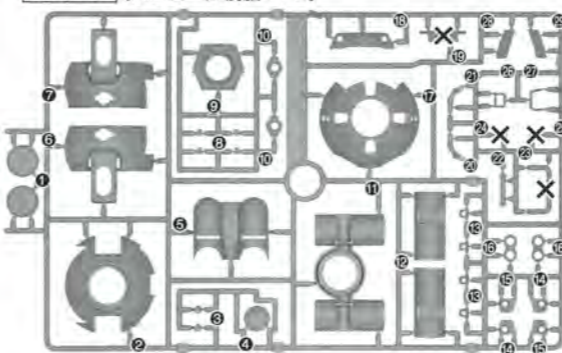
・鋭い部分があります。	・シールの番号	・口の中に入れてはなりません。	・顔を覆ったりしないでください。	・呼吸を止める恐れがあります。	・火気には近づけません。	・鋭い部分があります。
・切り取る場所	・部品を数値の個数作ります	・先に組み立てます	・力を入れずに行ってください	・力を入れずに行ってください	・力を入れずに行ってください	・反対側も同じように動かします

## 〈組み立てる時の注意〉

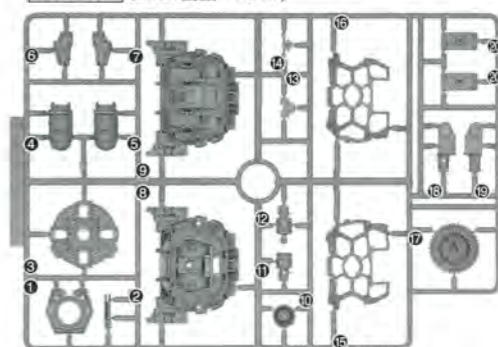
- 組み立てる前に説明書をよく読みましょう。
- 部品は番号を確かめ、ニッパーなどできれいに切り取りましょう。切り取った後のクズは捨ててください。
- 部品の加工の際の刃物、工具、塗料、接着剤などのご使用にあたっては、それぞれの取扱説明書をよく読んで正しく使用してください。
- 部品の中には、やむをえず、とがった所があるものもありますが、気をつけて組み立ててください。
- 塗装にはより安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。

## パーツリスト (X印は使わないパーツです。)

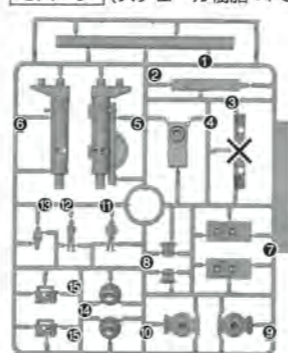
### Aパーツ (スチロール樹脂: PS)



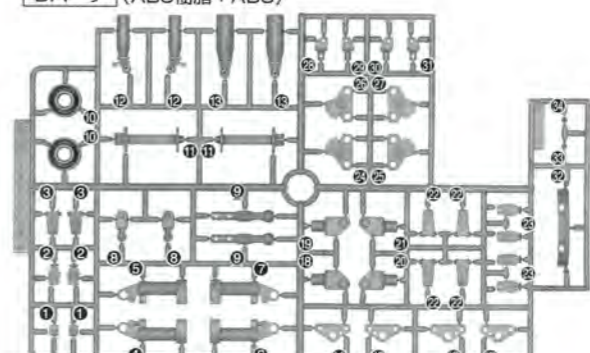
### Bパーツ (ABS樹脂: ABS)



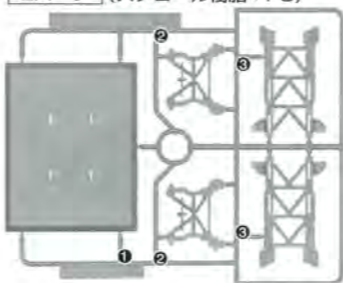
### Cパーツ (スチロール樹脂: PS)



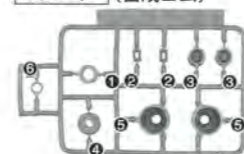
### Dパーツ (ABS樹脂: ABS)



### Eパーツ (スチロール樹脂: PS)



### Fパーツ (合成ゴム)



- カラーシール……………1枚
- マーキングシール……………1枚
- ガンダムデカール……………1枚
- 金属シャフト……………2本
- リード線……………1本 (塩化ビニル樹脂: PVC)

【部品表】 PARTS LIST  
 【基本説明】 HOW TO  
 【ボディ】 BODY UNIT  
 【武器】 WEAPONS  
 【アームユニット】 ARM UNIT  
 【完成】 FINAL ASSEMBLY  
 【ディスプレイスタンド】 DISPLAY STAND  
 【シール】 SEAL

# 組み立て前の基本説明

## 必要な道具

〈ニッパー(プラスチック用)〉  
・パーツをランナーから切りはなしてゲートを取るのに使います。

〈ピンセット〉  
・小さい部品を取り付けたりシールを貼るのに便利。

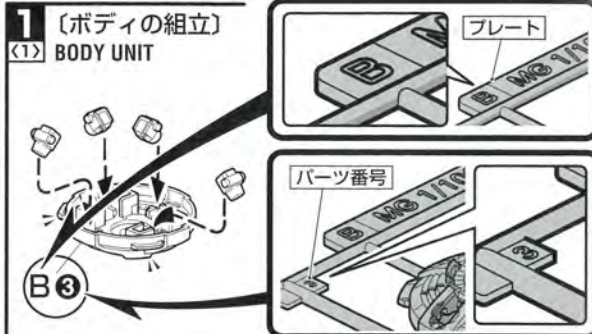


〈はさみ〉  
・ガンダムデカールを切りはなす際に使用します。

※この商品に道具類は入っていませんので、別にご用意ください。

## 説明書の見かた。

説明書のパーツに書いてある番号と同じものをランナーから探しましょう。(パーツリスト表と合わせて見ると、探しやすいでしょう。)

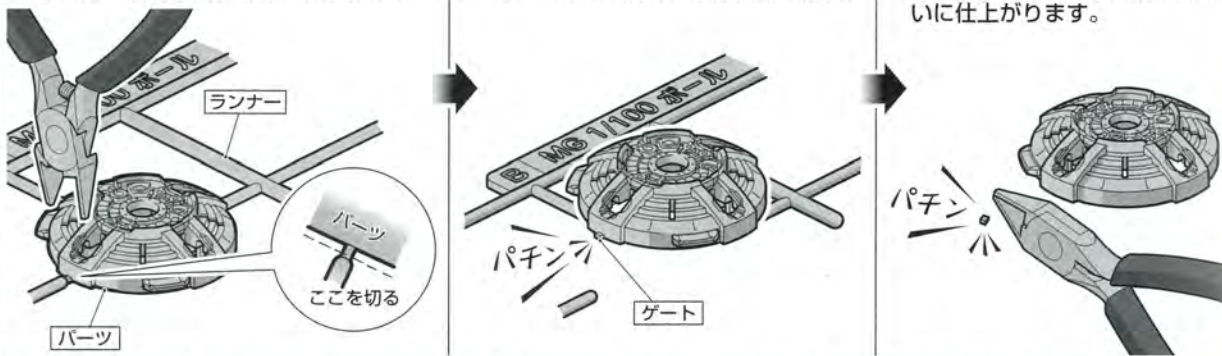


## パーツの切り取りかた。

①まず、パーツから少し離れた位置にニッパーの刃を入れて切り取ります。

②パーツを切り離して持ちやすくなったところでゲート跡の処理に入ります。

③ニッパーの刃をパーツに密着させてゲートを切り取れば、きれいに仕上がります。



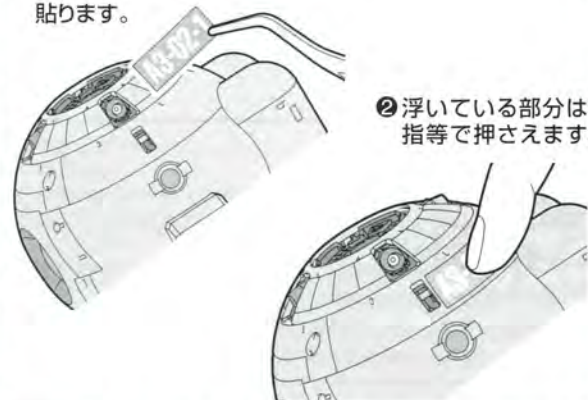
## マーキングシールの貼りかた。

※7・15ページを参考に、ご自由にお貼りください。

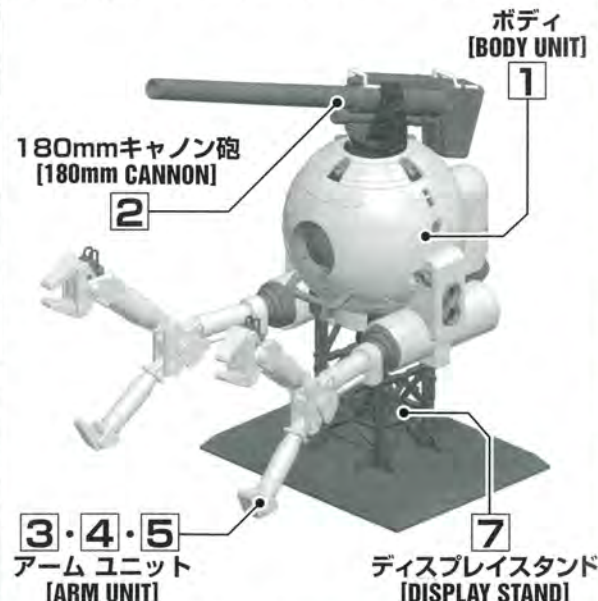


①ピンセット等でつまみ、マーキングシールを貼ります。

②浮いている部分は指等で押さえます。



## 説明書をよく読んで完成させましょう。

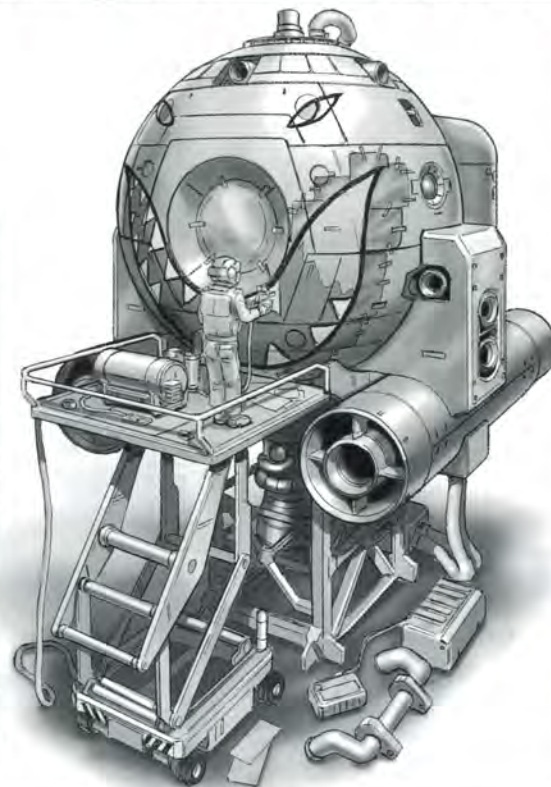


# BODY UNIT 〔ボディ〕

RB-79系、いわゆる“ボール”は、RGM-79ジムとの連携を前提とする、ロー・ハイミックス思想に基づいたスペックの達成が第一義とされていた。すなわち、ジムに随伴する支援MSである。そのボディは、その目的のみを達成するために無駄を排除した、非常にストイックなものであった。

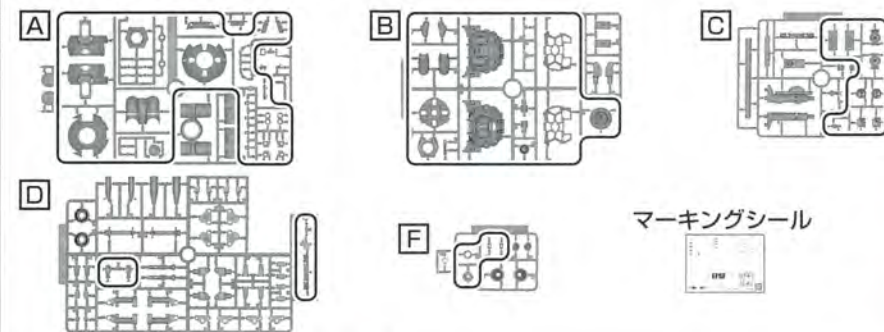
RB-79のボディユニットは、原型とされるSP-W03とは大幅にサイズが異なっているように見受けられるが、実際には、コックピットブロックや生命維持装置、制御機器などはほぼそのまま流用されている。主電源装置である出力400kwの燃料電池や機体制御用のベレット式ロケットモーターなどを始めとして、基礎OSにもほとんど手は加えられていないが、実の所“ボール”としての運用に際しても、基本プログラムに機能拡張やアプリケーションをいくつか追加するだけで必要十分な性能を発揮したと言われている。これらのハード及びソフトの検証は、ソロモン攻略戦以降も続けられており、“ボール”は更なる高性能化(あるいはコストダウン)に向けた進化を続けていたのである。

ちなみに、追加装甲に巨大なMSの顔面の意匠を施した機体の目撃情報も存在するが、鯨などの“口”よりも猛禽類の“目”を主題とする塗装などもあった事による誤認とする説の方が有力である。

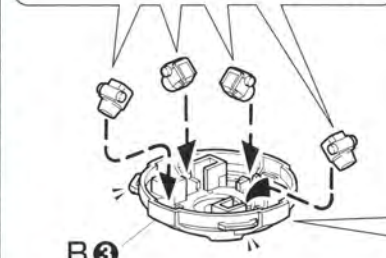
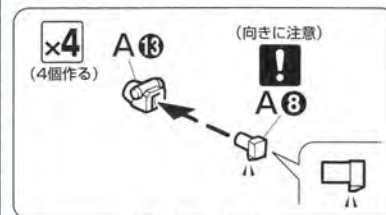


## 1 BODY UNIT

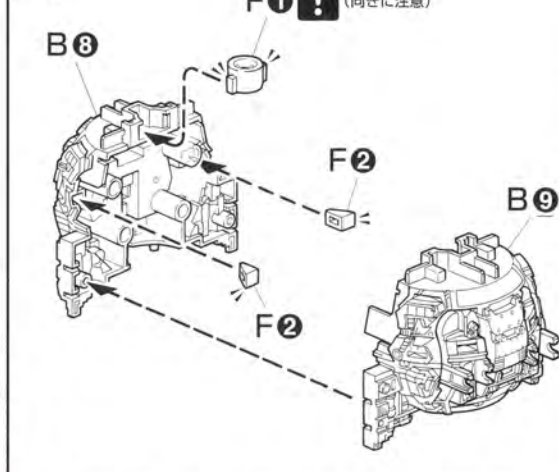
・組立①で使用するパーツ



### 1 〔ボディの組立〕 ① BODY UNIT

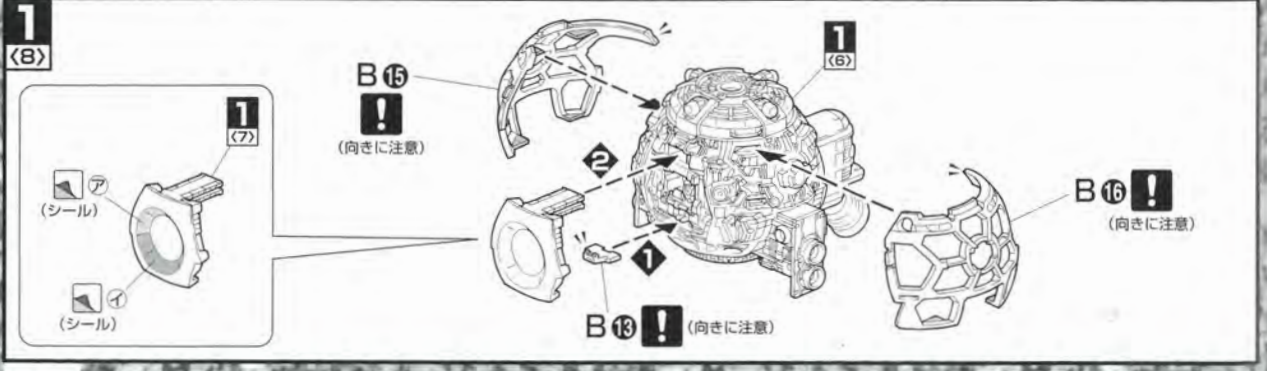
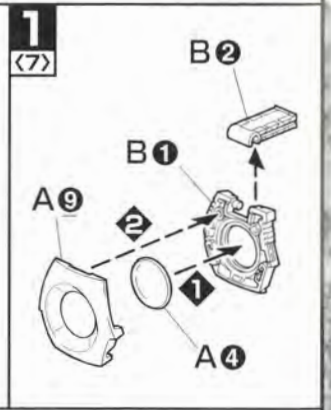
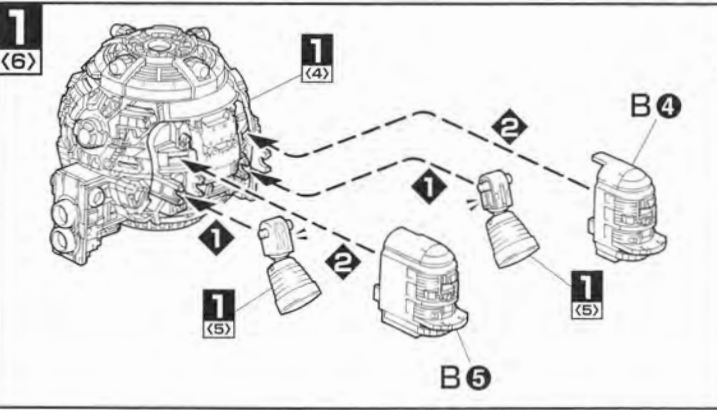
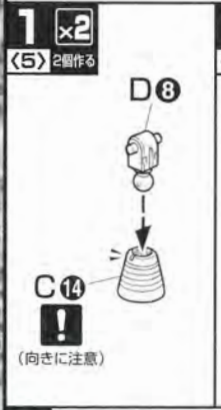
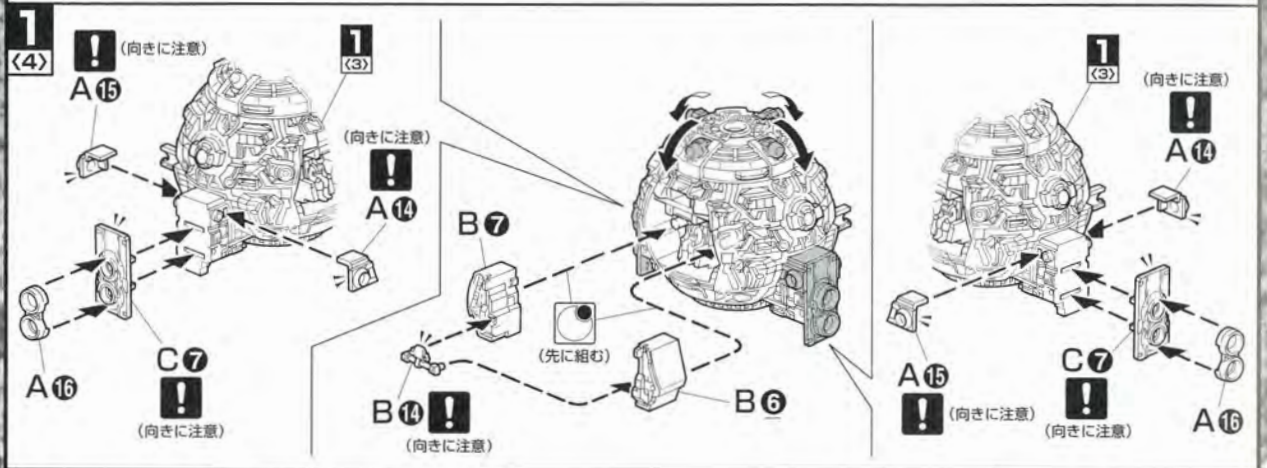
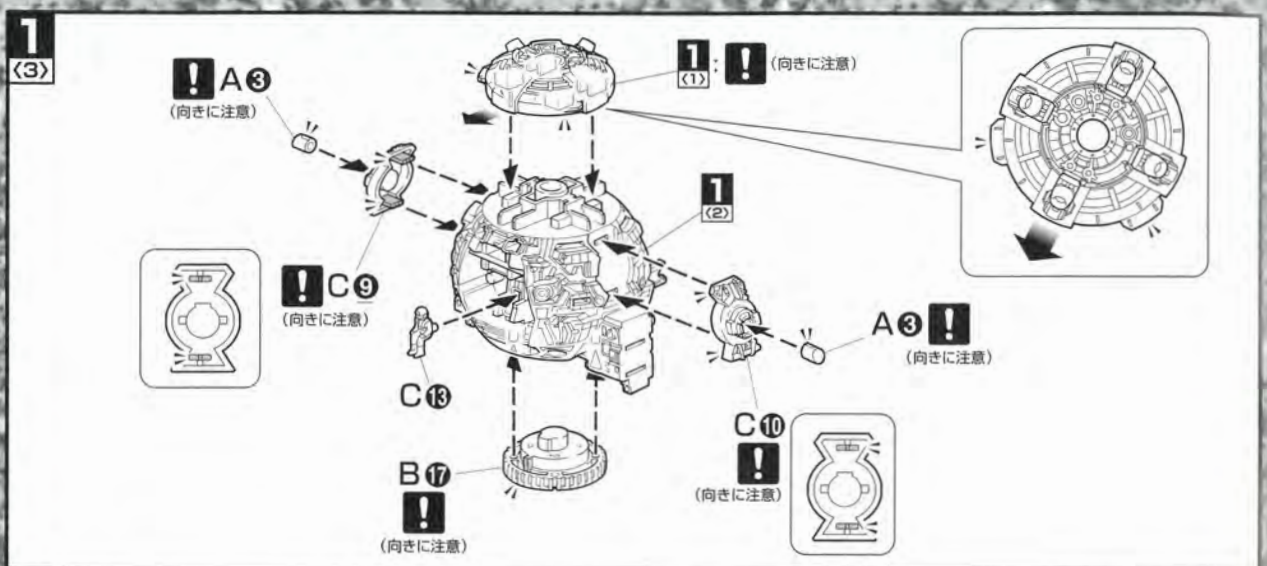


### 1 ②



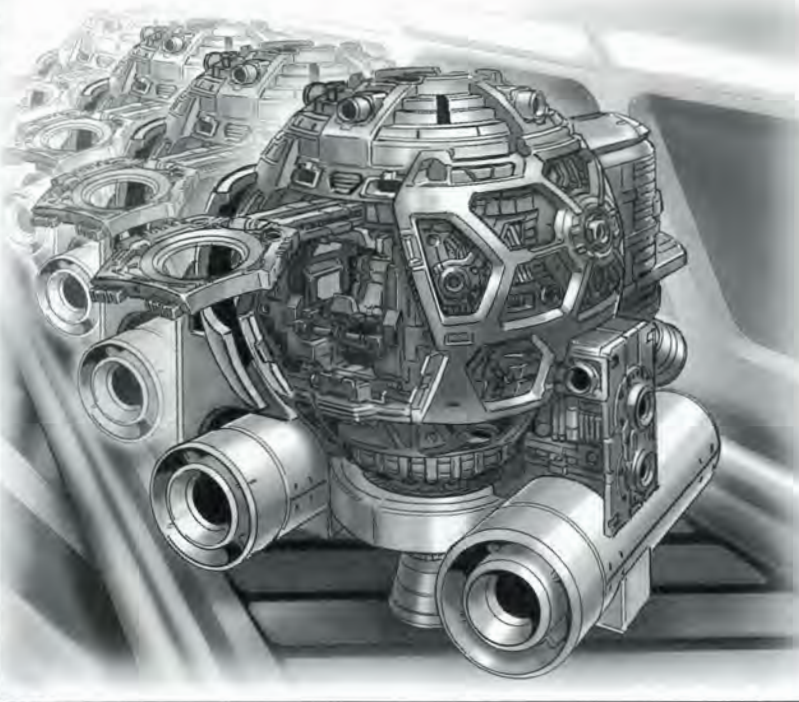
〔部品表〕 PARTS LIST  
〔基本説明〕 HOW TO  
〔ボディ〕 1 BODY UNIT  
〔武器〕 2 WEAPONS  
〔アームユニット〕 3 4 5 ARM UNIT  
〔完成〕 6 FINAL ASSEMBLY  
〔ディスプレイスタンド〕 7 DISPLAY STAND  
〔シール〕 SEAL

〔部品表〕 PARTS LIST  
〔基本説明〕 HOW TO  
〔ボディ〕 1 BODY UNIT  
〔武器〕 2 WEAPONS  
〔アームユニット〕 3 4 5 ARM UNIT  
〔完成〕 6 FINAL ASSEMBLY  
〔ディスプレイスタンド〕 7 DISPLAY STAND  
〔シール〕 SEAL

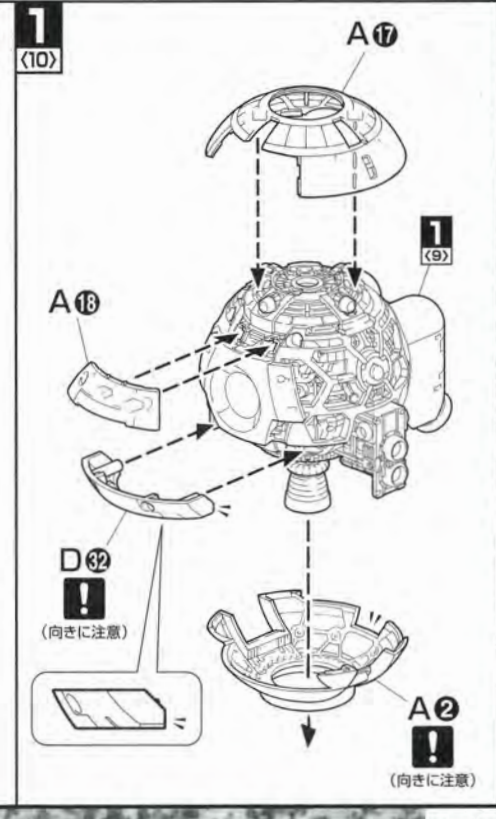
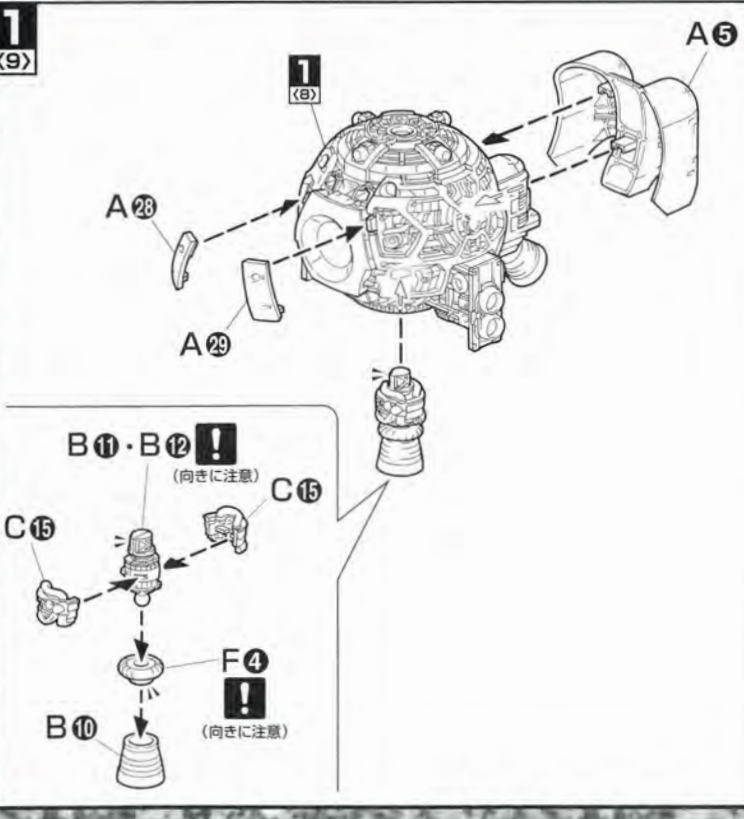
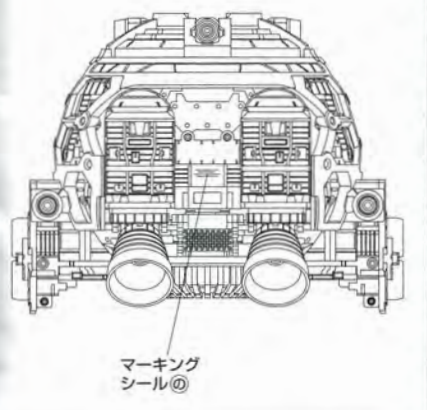
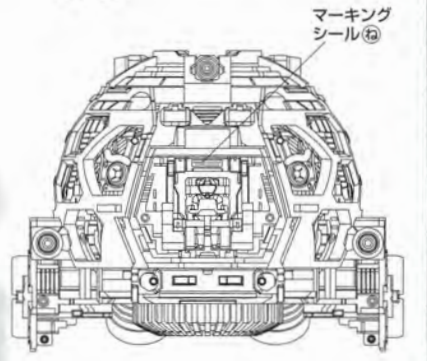


# BODY UNIT (インナーフレーム)

RB-79のインナーフレームは、原型機のメインフレームを、トラス構造や高機動バーニアスラスタシステム、そして最終装甲などが取り巻いているだけなのである。無論、それによって増加した自重に応じてマニピュレーターやメインスラスタなどは大型化されたが、それらにしても規格品を大型のものに換装しただけで済んでいる。



## (ボディに貼るシール) SEAL





## CONFUSED BATTLE OF SOLOMON

U.C.0079年12月24日。地球連邦軍は、ジオン公国軍の宇宙要塞ソロモンを攻略すべく、大規模な侵襲作戦を展開していた。混戦のさなか、編隊をはくれたMSを遠巻きから狙うボールの小隊があった。「06ザク、友軍機、兵士の曳航、ともに無し。合流点へ進走中か。へっ、カモだ。オハイオ小隊出撃する!!」「隊長、ティアム艦隊目掛けてバケモノみたいなMAが突貫してるらしいよよ」「バッカヤロー、あんなゴチャついたらどこへ突っ込んでみる、命がいくつあっても足りねえだろ」「そそ、ボールはあくまで支援用なんだから」「あんな時3隻のパバアに目がくらんでエイ目に入ったらどう、無理をしねーのが長生きの秘訣ってもんだ」ふた月ほど前、ルナツー周辺の宙域でサラミスを母艦としてバトロール任務に就いていたオハイオ小隊は、トライアル中の「ゴースト・ファイター」こと「ツダ」に遭遇し、這う這うの体で逃げ出した。地球連邦軍におけるツダの評価は低く、逃げ出したオハイオ小隊はルナツー周辺の哨戒任務から外された。帰還時に損壊した機体は更新されたものの、左連同様に遊撃隊とされてしまったのだ。「デギンのエリに賭けて、あいつの脚の速さはホンモノだった。」「もうあんな目に遭うのはこりこりだからな」「俺らにやこんな汚れ仕事がお似合いなのかもね」かつての屈辱を無理矢理飲み下しながら、3機は手負いのザクに踊りかかる。

## LEARNLESS BUNCH

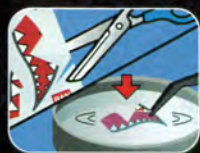
同年12月25日。オハイオ小隊のボール3機を積載したサラミス級ナガマはソロモン宙域最外縁の哨戒任務に就いていた。「レビル将軍が来てるらしいよ」「うむ」「残党が何度もチョッカイ出してるようですよ」「ソロモンの悪夢ってヤツか? ここまで逃げちゃ関係無けどな」そこにブリッジから敵艦発見の報が入る。「艦別不明の小型艦、エスコート無し」「臨時便だな?」「へっ、カモだ。オハイオ小隊出撃する。ブリッジ、筋(もやい)を解けえ!!」サラミスの甲板から解き放たれた3機のボールは母艦を離れて不明機を追撃する。「何のつもりか知らねえが、コンペイトウに近づきすぎた罪は重い!!」いままさに正体不明の小型艦に襲いかかるうとした瞬間、3機の眼前に光が閃いた。「なに?」「何だ!?」「まさかジオンの新型MAかあ!?!」「隊長、母艦を狙われる恐れが」「判ってる。退がるぞ!」その瞬間、ナガマは炎に包まれていた。「ギレンの盾毛に賭けて。こいつはヤベェ!!」「反転は間に合わん! このまま突っ込んでやり過ぎすんだ」「了解!!」手も足も持たず、深い緑色の甲虫のような異形のMAの後方をかすめて過ぎ去りながら、3人のパイロットは、さっきの閃光がこの世のものではないことを確信していた。



## OHIO PLATOON SORTIE

同年12月31日。ジオン公国の宇宙要塞ア・バオア・クーを巡る攻防戦は激烈を極めていた。そんな中、オハイオ小隊は部隊からはくれたMSを狙撃する任務に就いていた。「補給は済んだな? ここが正念場だ。オハイオ小隊出撃する!!」「ブリッジ、筋を解けえ!!」ア・バオア・クーの十字砲火を間近に望む宙域で、3機のボールはそれぞれ沈んだ艦艇の残骸に身を潜め、活発に展開する敵の艦艇やMSを狙う。「グワジン級か。大物だな」「ケツまくってグラナダへでも行くつもりか? だがもう手遅れだ」「ドズルの肩のトゲに賭けて。連邦に捕まいた罪は重い!」その時、オハイオ小隊のすぐ脇を別の隊のジムとボールが追い過ぎて行った。「なに?」「何だ?」「あ、畜生、あのグワジンは俺らの獲物だったのに!?!」「バカ、やめとけ!」と、さらに別のジムが小隊を押しとどめる。「連邦の雑魚共がっ!!」次の瞬間、突っ込んだジムとボールが青いゲルググに撃墜されていた。「えー、まさか、ソロモンの…!?!」「隊長、返り討ちにされる恐れが」「判ってる。退がるぞ!」反転した瞬間、3機に警告してくれたジムが青いゲルググに付き従うリック・ドムに撃墜されていた。その破片を間近に浴びながら、オハイオ小隊は自分たちの運命を呪っていた。果たして……!?

## MARKING GUIDE 水転写式ガンダムデカールを貼ろう!!



**step 1**  
使うガンダムデカールを切りとり、ぬるま湯に3秒程度浸し、ピンセットで引き上げます。



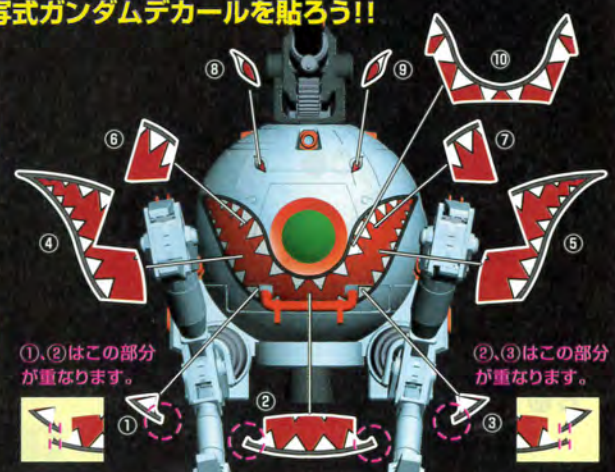
**step 2**  
台紙からガンダムデカールがすべるようになるまで待ち、表を上にしてすべらせて貼ってください。



**step 3**  
綿棒などで押し、気泡を取ってください。かわくまでは、手を触れないでください。

※ガンダムデカールを貼る部分のキットパーツの油分を、あらかじめ中性洗剤などでふきとると一層よく密着します。  
※ガンダムデカールを貼るための道具(ハサミ、ピンセット、綿棒など)は、別にご用意ください。

※写真の完成品は、塗装してあります。 ※写真・イラストと商品とは、多少異なりますのでご了承ください。



①、②はこの部分が重なります。 ③はこの部分が重なります。

## PAINTING

※よりリアルに仕上げたい場合は、下の基本色をご覧ください。 ※塗装にはより安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。  
●このキットをよりリアルに塗装したい方は、(株)GSIクレオスより発売のガンダムカラー等をお使いください。

### ボール

本体等ライトブルー部の塗装色。  
ホワイト(65%) + ミディアムブルー(25%)  
+ ニューラルグレー(10%) + レッド(少量)

コクピットハッチ、シャークマウス部等  
レッド部の塗装色。  
レッド(90%) + ブラウン(10%)  
+ ブラック(少量)

内部フレーム等ダークグレー部の塗装色。  
ミッドナイトブルー(100%)

180mmキャノン等グレー部の塗装色。  
ニューラルグレー(90%) +  
ブラック(10%)

### パイロット

パイロットスーツ イエロー部の  
塗装色。  
ホワイト(50%) +  
イエロー(40%) +  
オレンジイエロー(10%)

手、肩等ホワイト部の塗装色。  
ホワイト(100%) +  
ネビーブルー(少量)

バイザー  
スカイブルー部の塗装色。  
スカイブルー(100%)

首回り等ブラック部  
の塗装色。  
ミッドナイトブルー(100%)

### メカニククルー

ノーマルスーツ イエロー部の  
塗装色。  
オレンジイエロー(80%) +  
ホワイト(20%)

クツ等オレンジ部の塗装色。  
オレンジ(100%)

顔  
肌色部の塗装色。  
はだ色(100%)

バックパック ブルーグレー部の  
塗装色。  
エアクラフトグレー(70%) +  
ミディアムブルー(30%)

### ワンポイントステップ

スミ入れしてみよう!!  
ガンダムマーカー/スミ入れ用(別売り)  
などを使用して、ミノの所に線を引きこと  
で、模様が引き締まります。



[before]

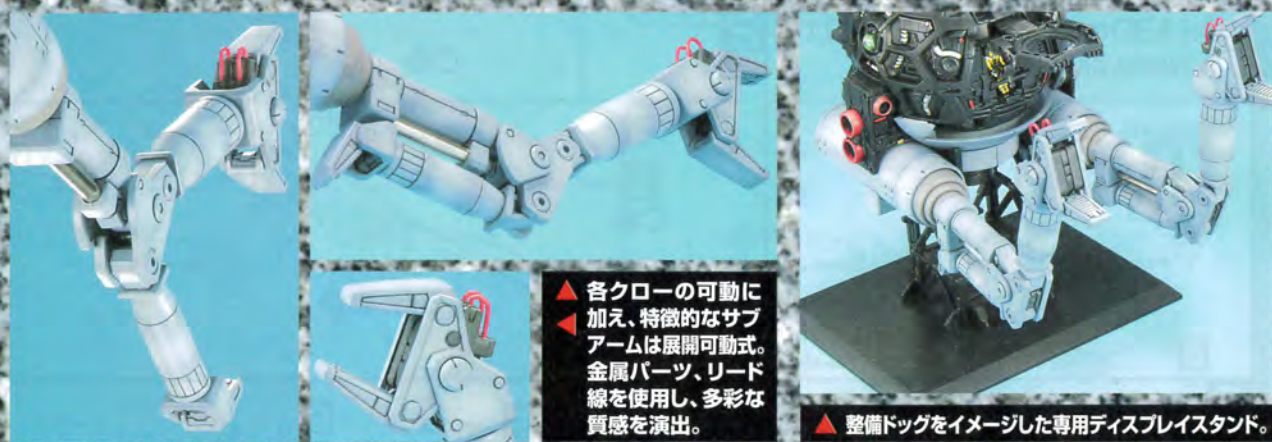


[after]



▲ コアフレームの上にトラスフレームを左右からかかえこむ二重構造の内部フレームを再現。下部、背部のスラスターは可動式。

▲ 正面にクリアパーツを使用したコクピットハッチは、開閉可動式。内部にはコクピット、パイロットを再現。



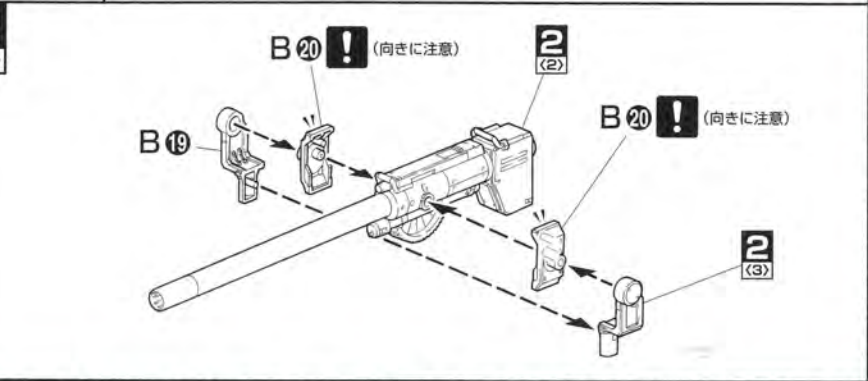
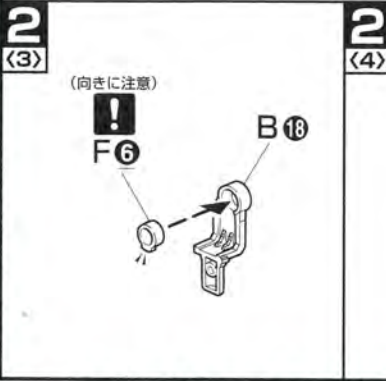
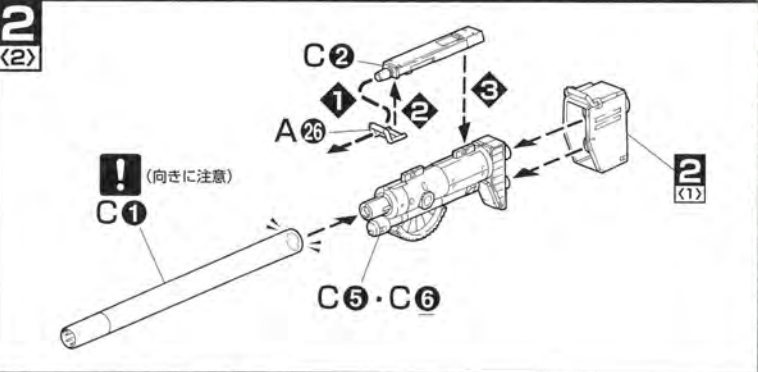
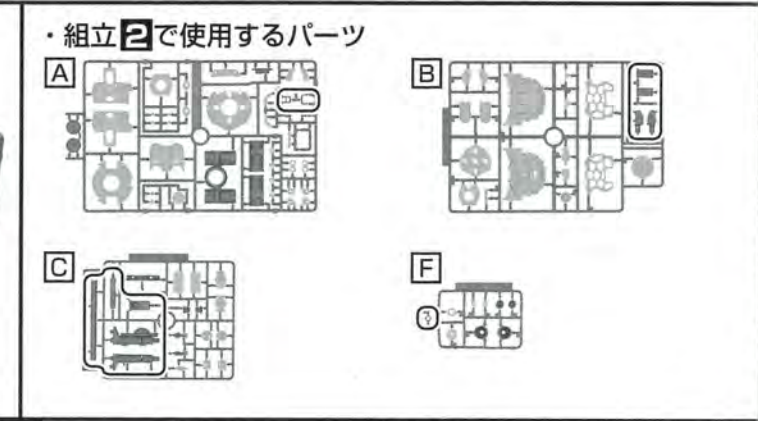
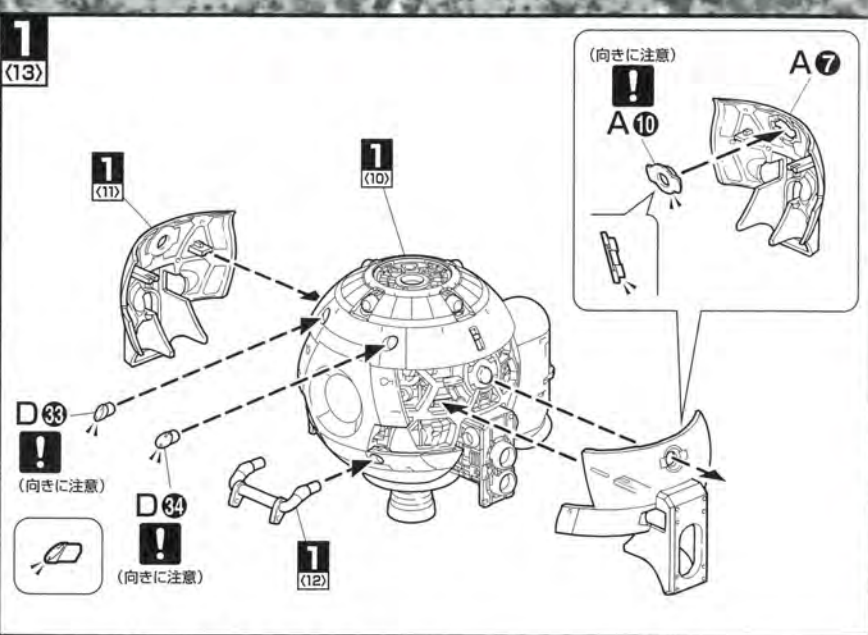
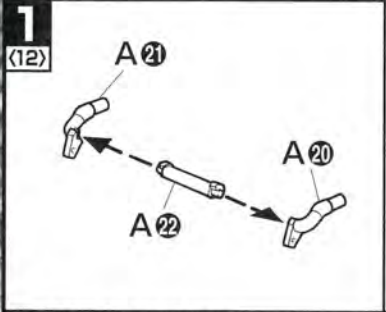
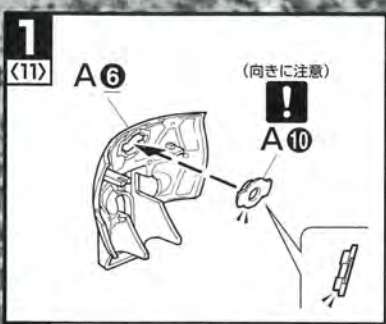
▲ 各クローの可動に加え、特徴的なサブアームは展開可動式。金属パーツ、リード線を使用し、多彩な質感を演出。

▲ 整備ドッグをイメージした専用ディスプレイスタンド。



▲ 上部回転ターレットに装備した低反動180mmキャノン砲をリアルに再現。

▲ ノーマルスーツ着用のメカニククルーフィギュアが2体付属。



# ARM UNIT (アームユニット)

RB-79系の機体の最大の特徴は一对のマニピュレーターである。旧世紀の原始的な往還機が装備する“ロボット・アーム”にも似たその装備は、格段の進化と発展を遂げた最先端の装備でもあった。ボールの設計ベースは宇宙作業用ワンマンボッドである。パイロットは直接目視とモニターカメラを併用して操縦を行う。連邦系MSのアクチュエーターはフィールドモーターが標準仕様となっているが、ボールに採用されているものは既存の作業機器の同等品であることは言うまでもない。マニピュレーターの出力は540hp前後で、実際に作業ボッドとしての使い勝手も上々であったようだ。また、機体がベース機よりも幾分大型化されたため、民生品の規格として、ひとクラス上の作業能力が付加されることとなった。それが、より大きな荷物を運ぶためのサブアームである。ただし、先行量産された機体にはサブアームが装備されているものが多かったのだが、本格的に量産された機体からはサブアームがオミットされている場合が多い。これは、先行量産機の実際の運用を通じた検証によって不要だと判断されたとする説と、とにかくコストを下げるために排除されたとする説があり、おそらくその両方であったのだろう。実際、いわゆる後期生産型に分類される機体群ではサブアームが復活している仕様も多く、本機もそのカテゴリーに含まれる。あくまで“ジムの支援用”として開発されたボールは“簡易MA”であったとする見解もあるが、連邦軍における分類はあくまでも“MS”であった。これは、MSによる戦術が確立する以前であったためとされているが、元々MSの出自自体が宇宙用の作業機器である。実際の前線において、この“一对の腕”は、自機を母艦に固定するために、あるいは僚機に装備を渡すために、または敵MSを拘束するために、文字通りその“腕を奮った”ことは間違いのない。

